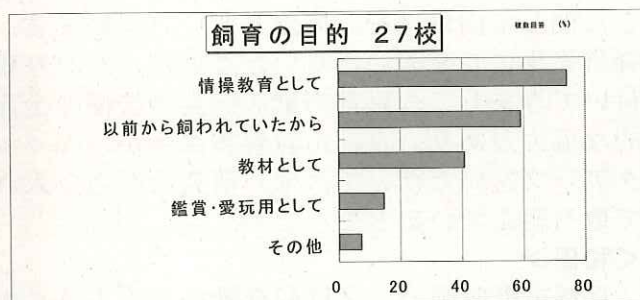


# パネル発表「東京都調査・学校が飼育に求めることと獣医師との連携の課題」

中川美穂子

## 1 飼育する理由と課題について

06年3月の東京都の「学校の動物飼育に関わる調査」で、葛飾区立小学校49校（回答25校）と他地区2校の計27校に動物を飼う理由と課題などを調査したところ「情操教育のため」が80%近くの学校に見られたが、同時に「以前から飼っているから」との答えが60%も見られており、漫然と飼っている現実も示していた。



また、飼育の課題について、教育委員会の半数が「ある」と答えていたが、その内容について、教育委員会・学校ともに「休日の世話」を一番にあげ、「児童への衛生」「動物の診療」を挙げていた。一方、学校は「餌代」「小屋の修理」の後に「動物の診療」を挙げていた。また、教育委員会の1/3が、「適切な飼育法」を挙げていた

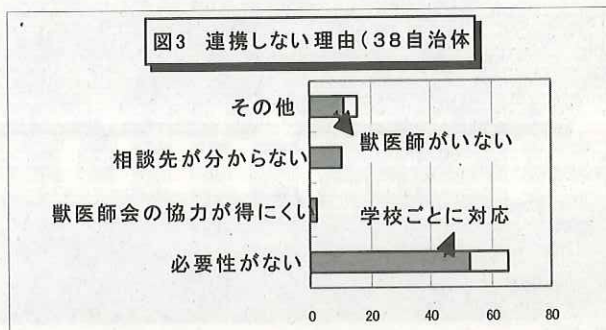
## 2 獣医師会との連携による飼育支援について

62市区町村の教育委員会のうち、38自治体の教育委員会が、以下のように獣医師会との連携の必要は無いとの理由を2図のように挙げた。

## 3 飼育支援の内容について

62自治体のうち22自治体が獣医師会と連携協力しているとして、内容について回答したが、その内容は「動物の診療」「教員・子どもへの飼育指導」「相談相手」「衛生環境への助言」

などであった。学校も治療を全校があげ、ついで40%が相談相手を挙げていた。



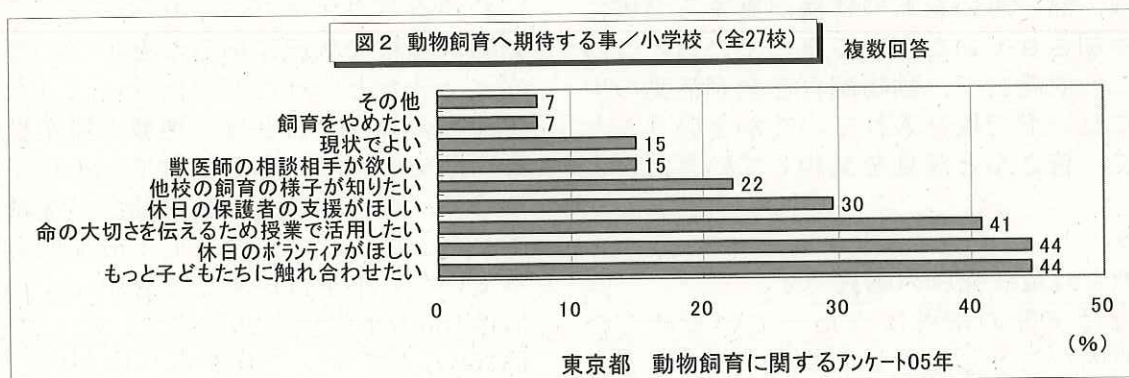
また連携地区の教育委員会が考える獣医師会との連携の課題で、目立つものは「内容の充実」であった。また「実績が少ない」も挙げられていた。

## 3 まとめ

今回の調査では、学校は動物飼育を教育的に活用したいと思いつながりながら、実際は方法がわからず、また休日の世話などの課題をあげて、飼育を止めたいと考える所も見られているが、小学校が「飼育に期待すること」では、先生方の夢（図3）と、それへの獣医師会と自治体の支援体制が明らかになった。しかし、支援内容の充実と実践を増やすことなどの課題も分かった。

また教育委員会は課題として「適切な飼育方法」を挙げていたが、このために各地で「飼育に関する教員研修」が増えていると考えられる。

現在、全国では40都道府県にわたる1000を超える自治体（全自治体の59%）で獣医師会が何らかの支援をしているが、まだまだ始まったばかりとも言え、各地でお互いに話し合いながら「将来をにやう子どものため」に工夫しながら、協力することが大事だろうと、考えている。



((社)東京都獣医師会)